

出演者の一言集

1-1.2 栗田 勲夫 上を向いて歩こう 人生のメリーゴーランド

2回目の参加となりました。前回からチラシ、チケット、プログラムのデザインをさせて頂き、多少は指笛音楽のお役に立てているのかなと幸せを感じます。今回のコピー「人の数だけ音色がある」は、私が最初に義母の応援で観覧に来たときに感じた「みんな音が違うんだ～」との気持ちを言葉にしたコピーです。是非皆さんにもこの面白さを感じて頂きたいです!!

1-3 安西 武雄 ともしび 山小屋の灯

秋という言葉は実り豊かなイメージの奥に凋落の響きを宿す。「秋の夜長」も「夏の短夜(ミジカヨ)」の対義語だ。そんな事を頭に選曲したら山小屋の風景が出、ついで「ともしび」が浮かんた。今年85歳。甲子園球場オープンと同年、だからキノエネ。今は干支を「えと」と読み十二支を唱える。実は(1)甲きのね(2)乙きのと(3)丙ひのえ(4)丁ひのと・・・(9)壬みずのえ(10)癸みずのとつまり十干(ジッカン)が本来のえとだと言う。兄弟の文字を充て、陰・陽をあらわすとか。

1-4 有吉 潤子 夜のタンゴ

私は好きなタンゴの勉強を始めて10年になります。今年はその歌の中から「夜のタンゴ」を選びました。タンゴのステップで踊りたくなるような軽快な曲です。前半は指笛で演奏して、後半は歌いますのでお楽しみいただけますように…。シャンソンを指笛で上手く吹けるようになることが私の夢です。

1-5.6 藤好 清晴 村の娘

指笛歴12年 連続出演する事が出来たことも指笛仲間の集いが楽しみだからと感謝しています。大手術後2年をクリア、趣味の菊作りや家庭菜園を楽しみながら寒川町の、わらべの会、マイステージなどで指笛も頑張っています。今回は「いつくしみ深き」を息子と二重演奏と軽やかな「村の娘」を独奏します。

1-6.7 藤好 真也 永遠の神の都 ユー・レイズ・ミーアップ

16年前、田村先生のテレビ出演を拝見し、指笛音楽の魅力に取り付かれました、早速、先生のご自宅を訪問して楽友会諸先輩に指導を受けて、半年程でやっと音が出ました。それ以来、毎月先生宅へ通っています。現在は父親と共に童謡を歌うコーラスに合わせて演奏したり、歌手やオーケストラと共に演奏できる機会が与えられ感謝しています。本日は自分を指笛の世界に導き、引き上げて下さった神への賛美を演奏致します。

1-8 片井 久雄 椰子の実 アヴェ・マリア

今回は久しぶりに参加できました。「椰子の実」遠き信州よりたどり着きました。「アヴェ・マリア」この曲は大三先生のCDで聴いたのが強い印象に残っています。青山先生のあの伴奏曲で演奏するのが夢でもあります。あの編曲楽譜を埋もれさせないで残してほしいと思います。

1-1.9 武井 洋子 上を向いて歩こう 恋はみずいろ

空、山、海の色は自然そのもの、この田舎町御宿に住んで早5年。何処に居ても音楽と言う文化は共通。「口と指」が楽器の指笛音楽は手軽と田村先生の門下生になり、静海先生のピアノでレッスンを受けてメロディーを吹けるようになったことは今の私には宝です。大三先生の指笛音楽は「魂で吹くのです」と言われる。しかし難しい！先生の偉大な演奏のひとかけらにも近づけませんが、心を込めて感謝の気持ちで吹きます。

1-10 吉田 重雄 川の流れるように 故郷の空

大三先生に初めて指笛を習ってから、丸16年が過ぎました。途中で病気の為殆んど吹けない状態が3～4年続き、今でも15分～20分以上続けて吹くと高音が出なくなって来るという状態にありますが。益々増して来る指笛の魅力に、自分なりの工夫をしながら取り組んで行きたい。『指笛はいいなあ～』と感じて貰える指笛を吹ける様になりたいものです。

1-11.14 奥津 恭子 波浮の港 アメージング・グレイス

今回は久し振りの出演です。河津さんのお誘いで「アメージング・グレイス」を吹くことになりました。黒人霊歌としてよく耳にしますが独特のメロディで哀愁や力強さもあり、ひかれる曲です。「波浮の港」は昭和初期に歌われた流行歌ですが格調が高かったため歌曲のように扱われたそうです。「ヤレホンニサ」の囃子言葉が面白いと思いました。「指笛の輪」も年々大きくなっています。私もその輪の中で益々精進していききたいと思います。

1-12 片山 陽一 アヴェ・マリア 木陰の散歩道

アメリカの作曲家ゴールドマンの代表的なマーチ曲「木陰の散歩道」はセントラルパークを歩く人々の様子を音楽で表現したと言われていますが、みなさまから手拍子をもらえるよう楽しく演奏したいと思っています。また「アヴェ・マリア」はシューベルト、カッチーニと並び三大アヴェ・マリアと称され親しまれている中で本日はフランスの作曲家グノーの曲をお聴き頂きたいと存じます。

1-13 有吉 憲行 カッコーワルツ

田村大三先生の指笛演奏「カッコー・ワルツ」をお聴きして、なんと明るく素晴らしい音の響きなのだろう。私は心が癒される思いでした。いつの日か自分もこの曲を演奏できるようになりたいと、以前から憧れておりましたので、今回思い切って教わることにしました。難しさは多々ありますが、ピアノの先生のご指導を受けながら日々練習に励み、今日に至りました。のどかにカッコウ鳥が鳴いている森の様子を表したいと思います。

1-14.2-3 河津 菊枝 枯葉

指笛の魅力にとりつかれ幾年、吹けば吹くほど奥深く、自分で思うように吹けないいだちも覚えるようになりました。これからは先輩方の助言をいただきながら吹き続け、多くの方に聴いていただき、「指笛音楽」を味わっていただければと思うこの頃です。

1-15 塩谷 彰宏 君をのせて 茶摘み

現在、青森観光物産館(アスパム)で毎月4回、30分間のミニコンサートを開催しています。去年8月から始めましたので、先日、50回目を迎えました。青森県のお土産を買いに来られる全国からの観光客のみなさん方がよく聞いてくださっています。これから、温泉や病院、市民センター等での演奏予定が入っています。毎日、練習を続けて、人々の心に響きわたる指笛演奏をめざしていききたいと思います。